



日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下、常陸宮妃華子殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下のご臨席を仰ぎ、令和6年全国赤十字大会が開催されました。奈良県支部から 19 名参会しました。支部役員、有功会役員、活動資金協力者、赤十字奉仕団委員長、支部・施設職員を含む、全国の赤十字関係者約 1,600 名が参会しました。

令和6年度全国赤十字大会 5月15日（水） @明治神宮会館



支部評議委員会 6月10日（月） @奈良県人権センター

令和6年度支部評議委員会を開催しました。監査委員の逝去に伴う選出、令和5年度事業報告、一般会計決算報告及び血液センター事業報告について、ご審議いただき、原案のとおり了承されました。



日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練を実施しました。奈良県からは、医療コーディネーター、救護班（大和高田市立病院）、支部職員の計 19 名が参加しました。今回の訓練では、和歌山県と同じ半島で起きた令和6年能登半島地震での活動経験を元に、南海トラフ地震を想定し、救護所や避難所において、被災者の怪我や避難者のニーズの抽出、こころのケア等、有事に備え、手順や連携の確認を行いました。

4ブロック合同災害救護訓練 6月15日（土） @和歌山県消防学校



有功会総会 7月29日（月） @奈良ホテル「大和の間」

令和6年度有功会総会を開催しました。有功会長逝去に伴う改選、令和5年度事業報告、決算報告、令和6年度事業計画、予算について、ご審議いただき、原案のとおり承認されました。また日本における災害医療について、奈良県立医科大学教授福島先生にご講演をいただきました。



青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターを開催しました。「気づき、考え、実行する」を行動目標とし、指示のない生活を行います。ベルや放送、指導者からの指示ではなく、必要な連絡は掲示板を使い、自主的な生活を促します。人から言われて行動するのではなく、自分から気づき、どのようにすればよいかを考え、そして実行できる人になることを目指しています。参加したメンバーは自発的に行動する力を身につけ、赤十字への理解も深めることができました。

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター 8月8日（木）、9日（金）@奈良市青少年野外活動センター



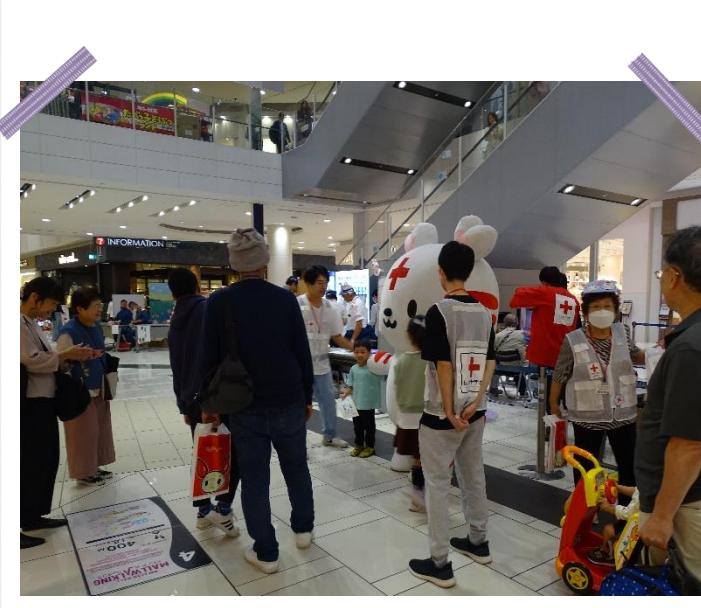
人間の尊厳を傷つけられていたハンセン病患者に対する過去の差別的な出来事を知り、ハンセン病について理解を深めることを目的とし、今回で69回目の訪問となりました。長島愛生園では、県人会の方々と団員でふるさと奈良や施設に関するお話を、団員によるハープ演奏に合わせて合唱などの交流を深めました。邑久光明園では、学芸員の方に解説をしていただきながらの歴史資料館・園内施設の見学、納骨堂へのお参りを行いました。

ハンセン病施設訪問 10月9日（水） @岡山県国立療養所「長島愛生園」・「邑久光明園」



令和6年度奈良県防災総合訓練に参加しました。奈良市における地震災害を想定し、各防災関係機関と連携を図りながら救護活動を実施しました。被災地訓練では、テント設営訓練及び搬送訓練、避難所訓練では西和医療センターの救護班がアセスメント訓練等を行いました。天候に恵まれたなかで活動を終えることができました。各機関との連携体制の強化及び情報共有の重要性を改めて実感できる非常に有意義な活動となりました。

奈良県防災総合訓練 10月20日（日） @都祁生涯スポーツセンター



赤十字の活動をより身近に感じていただくため、心肺蘇生の体験、工作コーナー（オリジナルサンバイザー、うでピタバルーン）、献血WEB会員サービスラブラッドの紹介、献血の受付、救急車・災害救援車の車両展示や車内見学、子ども用救護服・ナース服の試着、救援物資の展示などを実施しました。奉仕団員（ボランティア）のご協力とハートラちゃん・けんけつちゃんの登場により、多くの親子連れの方にご参加いただきました。

赤十字フェスタ 2024 in なら 10月26日（土） @イオンモール大和郡山



県内の防災セミナー普及を目的として、地域奉仕団員、安全法指導奉仕団、青少年赤十字指導者、支部職員など計14名が参加し、2日間のカリキュラムにて開催しました。新たに指導者になっていただいた皆さんには、今後、県内各地で防災セミナーの普及にご協力いただきます。

防災教育事業指導者養成研修 11月23日（土）～11月24日（日）@奈良県支部



世界各地で紛争、災害、病気などにより苦しんでいる人びとを救うために、日本赤十字社とNHKが共同で行っています。地域赤十字奉仕団、青年赤十字奉仕団の団員が、県内各地で街頭募金活動を行いました。令和6年度は、県内で201件、866,370円のご寄付をいただきました。皆さまからいただいたご寄付は、「①紛争に伴う難民・避難民などへの対応」「②頻発、激甚化する災害への対応」「③人々のレジリエンスを強化するため取り組み」の3つの軸とともに、全世界に広がる赤十字のネットワークを活用した人道支援に役立てられます。



国内で災害が頻発している中、県内でも起こる可能性があり、災害が起った時などにどのように行動すればよいか、また、おうちの中の危険箇所を親子で話し合い、自宅内の危険について理解することを目的としました。また、地震、おうちの中の危険個所、身近なものを使った応急手当の方法などを学びました。

親子で学ぶぼうさい教室 1月12日（日） @奈良県支部

NHK 海外たすけあい 12月1日（日）～12月25日（水）@奈良県内



令和6年能登半島地震に伴う仮設住宅への入居が進み、被災者のニーズが変化していることから、石川県支部及び本社において、各被災地における支援のニーズについて自治体職員等に聞き取りを行ったところ、仮設住宅入居者の健康不安や引きこもり、孤立・孤独に対する支援ニーズが高い状況であったことから能登町柳田地区にて、ボランティア5名、支部職員1名で支援活動を行いました。

能登半島地震支援活動 1月24日（金）～26日（日） @石川県能登町



各奉仕団の令和6年度事業報告、令和7年度の支部事業計画、血液センターからの事業報告を行いました。午後からは、各奉仕団の委員長同士が「つながる」ことにより、より良い関係づくりを構築するため、日本ファンドレイジング協会から講師の先生をお呼びし「From me」(寄付・投資・ボランティア活動などを通して、人生の幸福度の向上と社会貢献の関係性をゲームの目標を目指しながら学びと体験ができるカードゲーム型セミナー)を行いました。それぞれのゴールを目指し、普段関わることのない委員長とコミュニケーションをとることで、和気あいあいとした交流会となりました。

支部委員会 2月19日（水） @奈良県支部



BEHELP研修 2月22日（土） @奈良県支部



奈良県青少年赤十字賛助奉仕団は、青少年赤十字の指導に当たっていた先生で組織され、青少年赤十字指導者やメンバーの活動を側面から支えています。青少年赤十字及び奈良県支部の現状から、青少年赤十字の普及のために具体的にどのように活動を展開・充実させていくか、また、青少年赤十字の防災教育プログラムについての活用法や指導法について、研究することを目的として交流会を開催しました。

奈良県青少年赤十字賛助奉仕団交流会 2月15日（土）@奈良県支部



有功会理事会 3月21日（金） @ホテルリガーレ春日野

大規模・広域災害時に、各救護班が医療救護活動を円滑に行うために、日本災害 医学会の BHELP 標準コースを開催しました。発災直後から避難所での活動を効果的かつ効率的に実践するために、災害対応における知識、共通の言語と原則を理解し、被災者の生命と健康の維持、災害発生直後からの被災地内での災害対応能力向上を目的として医療従事者等21名が参加しました。

有功会役員 11名が出席し、役員改選、令和7年度事業計画、収支予算、第60回有功会総会について協議しました。会議終了後、親睦を深める昼食会を開催し、役員の交流を深めました。